ゆめに向かう『 やる気 』ゆめをかなえる『本気』何度でもやり直す『根気』

輝け！口石っ子　佐々町立口石小学校 学校便り

令和５年９月１日　５７号　文責　校長　岩下裕之介

８月２６日から、２学期が始まりました。静かだった学校も子どもたちの元気な声で賑やかになり、子どもがいてこその学校ということを改めて認識したところです。夏季休業中、幸いにも大きな事故やけが等もなく、元気に夏休みを過ごすことができたようでうれしく思います。２学期も、子どもたちが安全に、健康に、そして明るく学校生活を送ることができるように、職員一同、全力をあげて指導にあたっていきますので、１学期同様、温かいご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

全国学力・学習状況調査、長崎県学力調査結果

全国の６年生を対象に、４月に実施した全国学力・学習状況調査の結果と、長崎県の５年生（国語・算数）と６年生（理科）を対象に実施した長崎県学力調査の結果についてお知らせします。

○　６年生　全国学力・学習状況調査の結果

算数は全国平均を下回っていますが、国語は県平均程度です。

もう少し詳しく見ていきます。

〈国語〉・学習指導要領の領域別に見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関すること」で全国平均を上回っている。「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」において下回っている。

〈算数〉・領域別に見ると、「データの活用」「変化と関係」「数と計算」「図形」が特に全国平均を下回っている。

〈学習状況調査〉

- 「先生は、よいところを認めてくれている」「将来の夢や目標をもっている」の項目はとても高いが、「自分にはよいところがある」の項目が低い。
- 「人が困っている時、進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目が高い。
- 「英語の勉強は大切だと思う」の項目が高い。
- 「学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の項目が高い
- 「朝食を毎日食べている」の項目は高いが、「授業以外に１時間以上の学習をしている」「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の項目が低い。

〈考察〉

- 国語、算数で全国平均を下回っていることから、今後も学力向上のための取組を継続し、中学進学に向けて基礎学力を高めていく必要がある。
- 学習に対する興味関心について、英語は高ポイントであることから、日頃の授業で主体的な学習が行われていることの成果が出ていると言える。また、無答率が低いことから、粘り強く取り組む姿勢が見られる。今後も、「進んで対話し、学ぶ楽しさを味わう学習」を日常的に意識した授業をすることで、主体的に学習に臨む態度を育てていきたい。
- 国語では、知識・技能の漢字や言葉に関する事項で平均を上回っていることから、習熟タイム等に行っている基礎基本の補充の成果が出ている。
  一方で、特に「読むこと」に課題がある。そこで、文章を読んで理解したことに基づいて考えをまとめるために、複数の語句を〇や□で囲んだり、語句と語句を線でつないだりすることによって、情報を整理する力をつけていく。
- 算数では、各領域ともに平均を下回ることから、全体的な学力の底上げが必要である。学力調査ではほとんどの設問で、図や表、グラフが取り入れられており、回

答に必要な情報を見出すことに課題が見られる。そこで、読解力に関する児童のつまずきを意識して授業を展開したり、図や表、グラフから捉えた特徴や考察したことを、根拠を明確にして説明させたりすることに力を入れていく。

・　学習状況調査から自己有用感についてはまだ伸びしろがあるが、日頃から先生方が児童に対して、前向きな声掛けや関わり方をしていることが調査結果に表れている。

　一方で、家庭学習について課題が見られる。生活習慣や学習習慣については、家庭との連携が欠かせないため、生活習慣カレンダーや家庭学習がんばり週間などの取組、学級・学年通信での啓発を継続していく。

○ 長崎県学力調査の結果

５年国語、算数ともに県平均を下回っています。
６年理科は、県平均を下回っています。

もう少し詳しく見ていきます。

〈５年国語〉・領域別に見ると、「知識及び技能」「書くこと」「話すこと・聞くこと」が、特に県平均を下回っている。

〈５年算数〉・領域別に見ると、「図形」「データの活用」「測定」「数と計算」が、特に県平均を下回っている。

〈６年理科〉・領域別に見ると、「粒子」で全国平均を上回っている。「エネルギー」「生命」「地球」において下回っている。

〈考察〉・　国語、算数ともに県平均を下回っていることから、今後も学力向上のための取組を継続する。特に国語は、正答数度数分布表のグラフの頂点が県平均より大きく左にあることから全体的な底上げが必要である。

・　国語では、条件に合わせて書く設問の正答率が低いことから、相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら話したり書いたりする力を身につけさせたい。指導にあたっては、話の中心とその事例が、相手にとって理解しやすいものかどうか、グループで検討しながら協働的に学ぶ場面を重視していく。

　また、漢字を正しく書く設問で県平均を大きく下回っているため、学習した漢字が確実に定着するように、「三気ドリル」やドリルパーク等を活用して、日頃から反復練習に取り組ませていく。

・　算数では、データの活用の設問で正答率が著しく低いことから、目的に応じてデータを収集する力、分類整理する力、データの特徴を読み取る力を身に付けさせていく。

　また、２つの数量関係を式に表したり、それをもとに面積を求めたりする設問で正答率が低いことから、表の２つの数値を縦にも横にも関連付けてみることができる力をつけていく。

・　理科では、「エネルギー」「生命」「地球」の領域で課題があり、特に電流の向きやつなぎ方、電磁石に関係する領域で正答率が低かった。前の学年での学習内容を振り返り、次の学年の学習につながるような手立てを行うことで学びのつながりを意識させたり、学習したことを生活場面と関連付けたりすることで、学びの定着を図っていく。

　また、無回答率は１６問中の後半８問が高く、途中であきらめてしまっている児童も少なからずいると考えられる。普段から、様々な問題に取り組むようにすることで、課題に取り組むスタミナもつけていく。

本校におきましては、今回の調査結果を、６年生、５年生のみの課題としてではなく、本校で６年間、あるいは５年間、学習してきた児童の姿として「学校全体の課題」であると受けとめ、今後全学年を通して改善を進めていきたいと考えています。今回の結果をもとに、授業において指導方法を工夫することや、よりきめ細かく家庭・地域と一体となり取り組んでいくことを本校の課題として、引き続き今後も教育改善を図っていきます。 保護者・地域の皆様には、なお一層のお力添えをお願い申し上げます。

なお、今回の調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。